

2023年度 12月 1日

オ リ ー フ 通 信



ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。

イザヤ書9章5節
神愛保育園

「12 月をむかえて」

気温の寒暖差が激しい日が続きます。そして、クリスマスが近づいてきました。

保育園では、この時期、どのお部屋からもクリスマスの歌が聞こえ始めます。それぞれのクラスで年齢に応じ、イエス・キリストの誕生をお祝いする準備をしています。

準備は、歌や劇(ページェント)だけではありません。生まれてくる救い主イエスを待つために「アドベント(待降節)」という時期を過ごします。このアドベントという時期に、ひまわり組では毎週1本ずつろうそくに火を灯し、子どもたちに向けて、「いのち、人権、平和」をわかりやすく伝えることを行っています。悲しんでいる人、泣いている人、弱い人の思いに気が付き、幼児は幼児なりに、他者のことを思い自分のできることを探してほしいとの願いからです。クリスマスというお祝いの時になぜでしょうか？

劇(ページェント)の中で子どもたちが演じる羊飼いや博士は、星が告げ知らせた馬小屋でイエスを拝み、この方こそ救い主であると喜び祝います。しかし、その前に博士たちは、イスラエルの民が長い間待ち望んでいた救い主(王)に会うために、当然のように当時の王様のところに行き「ユダヤ人の王としてお生まれになったかたはどこにおられますか？」と尋ねます。この部分は、子どもたちの劇では演じていません。まさか三人の博士にとっても、王になる方が貧しい馬小屋で生まれるとは考えも及ばず、王様が住む宮殿を訪ねてしまったのです。その後、星の導きによって、馬小屋に到着します。富や権力の象徴である宮殿ではなく、救い主としてイエスが貧しい馬小屋で誕生したことはどんな人でも誰でも訪ねてこられることを意味しているといわれています。そして、権力を持つ王としてではなく、世界中のあらゆる人々に夢と平和と希望をもたらす方としてお生まれになりました。このクリスマスで語られる一連の出来事は、時代を超えてどんな境遇であっても、どんな状況におかれていても、すべての人がこの救い主の喜びにあずかり、「あなたは大切な貴い存在」ですよと告げられているのです。

今ニュースではウクライナやパレスチナ、イスラエルの子どもたちが大人たちの争いの中で過ごしている映像が流れてきます。年長さんの中には、これらの映像に、「かわいそうだね」と詳しい内容はわからずとも、関心を寄せる姿があります。

複雑な世界情勢の中で、私たちに何ができるか、何が正しいのかもわかりません。ただ

戦いや争いではなく子どもたちが安心して生活できる愛と平和の日が一日も早く来る日を祈りながら、このクリスマスを準備する中で、子どもたちと一緒に考えていければと思います。



神愛保育園園長 鵜澤由記子

11月の神愛まつりには、ひまわりクッキーを購入いただきありがとうございました。総数104袋(計624個)を子どもたちが作りました。売り上げは、52,000円になりました。来年の4・5歳児キャンプの費用に使わせていただきます。ありがとうございました。

保健だより 2023 年 12 月



朝晩の冷え込みが厳しくなり、冬の到来を感じ始めました。また乾燥が気になる季節となりました。園では、加湿器を使い湿度管理をしています。子どもたちは散歩用の上着を着て、元気に屋外活動を楽しんでいます。環境面など気になることがありましたら、声をお掛け下さい。

咽頭結膜熱（プール熱）

11 月上旬から全国的に流行が始まり、過去 10 年で最も患者数が多くなり、現在もピークアウトしていません。プールの季節に流行することから、プール熱と呼ばれており、秋・初冬の流行は季節外れと言えます。園でもかかったお子さんがいましたが、感染の拡がりはありません。地域でも流行が続いていることから、まだ注意が必要です。

- 39 度前後の発熱・咽頭通・結膜炎症状・目やにが主症状です。
- 目の症状があっても、発熱も伴う時は小児科を受診しましょう。
- 感染力は強く、飛沫感染・接触感染で拡がります。タオルの共有はやめましょう。
- 登園の目安は主な症状が全て消えた後、2 日を経過してからです。
- 免疫がつきにくく、ウイルスの種類が多いため、何度もかかることがあります。

この疾患は治癒後に登園するときは、意見書が必要です。



《歯科検診》

11 月 27 日（月）、園で歯科検診が実施されました。乳児は泣いてしまうお子さんもいましたが、幼児は園での検診を経験していることもあり、自分の名前を言い、「ありがとうございました！」と元気に言う姿が見られました。検診の結果は、各ご家庭にお配りしました。極端な虫歯のお子さんはなく、噛み合わせ・磨き残しなどのお知らせをしています。治療・受診の必要な方はいらっしゃいますが、かかりつけ歯科医院に通院しておられ、様子観察中という方は次回の通院の際にかまいませんので、結果用紙をお持ちください。



食事だより



♪お芋でクッキング♪ (芋掘り遠足で掘ってきたさつま芋を使って調理活動をしました。)

乳児クラス お芋に触れてみたり、
芋掘りごっこを楽しみました。



おいもだー！

うまく掘れるかな！



とれたよー!!



酒井農園で掘って
きた硬いさつま芋
のカットに挑戦

ひまわり組年長 さつま芋汁

みんなで切った野菜を煮て、お味
噌を入れて、どんな具合か見学
中。だしの香りが届いたかな？



苦手な野菜が入って
いてもチャレンジす
る姿がありました



ちゅうりっぷ組 さつま芋ごはん

お釜にカットした
さつま芋を入れて
スイッチオン



さつま芋ごはんの
出来上がり!!



ホットケーキミックスと牛乳を丁寧に混ぜたところへカット
したさつま芋を入れて、もう一度混ぜたあと蒸しカップへ。
こぼさない様に慎重に!!

ひまわり組年中 さつま芋蒸しパン



年長さんにもお裾分け
「美味しい」と言われて
笑顔になる年中さん



ひだまり
～地域の親子と園児の交流～



今年も早いもので残すところ一ヶ月足らずとなりました。皆様にとってどのような一年に感じ
られましたでしょうか。



先月行われた神愛まつりには、ひだまりも数年振りに参加することが
出来ました。コロナ前とは違った新しい形の神愛まつりでしたが、園児
と一緒に参加できたことを大変嬉しく感じました。利用者さん親子も
『的あて』『ボーリング』『ワニワニパニック』などのゲームをたくさん
楽しみました。これからも園児と関われる機会を大切にしていきたいと
思います。

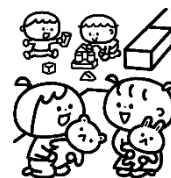
先月終わりに森下文化センターにて、母親講座『親子体操』を行いま
した。身体を使った体操だけでなく、お父さん、お母さん向けのヨガや体
の伸ばし方などを教えて頂きました。また、手遊びやベビーマッサージの
時間もあり、お子さんとスキンシップを図ることは大切という話もありま
した。

今後もひだまりではたくさんの方が楽しめるプログラムを考えていき
たいと思います。





ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2023年 11月 15日(水) 天気 くもりのち晴れ つくし組(0歳児)

「つたわるとうれしいな」

部屋で遊んでいる時、穴落とし遊具をおこなっている A。時折「あー」と大きな太い声で保育者を呼んでいる。今日も穴落としに落とす物がなくなると「終わったよ。蓋開けて」と言わんばかりに「あー」という声がした。「Aちゃん、開けて欲しいの?」「あーけーて?」とゆっくり言ってみる。すると、一文字ずつ合わせるかのようにニコニコしながら体をゆすっていた。まだ発語はないが言葉の意味は理解しているようで、言いたかったことが伝わった嬉しさがあふれていた。喃語(赤ちゃんが発する言葉)の子どもたちには特に、ゆっくりと短く話すようにしている。Bも喃語が出ているが、アンパンマンを伝えたい時には、手遊びのアンパンマンのポーズをする等本児なりに一生懸命に伝えてくれる姿があるため、子どもたちの伝えようとする気持ちにいつも応えられるようにできたらと思う。

0歳児クラスの場面です。11月に入って、9名の子どもたち全員歩き始めました。子どもたちにとって、ハイハイそして、伝い歩きが終了し、その後二足歩行ができるようになることは、自分のやりたい世界がとても大きく広がる契機になります。なんといっても、自分の欲しいものや興味あるものに近づいていくことができるのですから。

今や急速に社会や科学が進歩しています。しかし、赤ちゃんが人間になっていくため(身体発達・歩行・言葉・感情等)には大昔から変わらない、発達のみちすじがあることを私たち保育者は毎年子どもたちから教えられます。言葉も同じです。AちゃんやBちゃんは、喃語を使いながら、周りの大人とのコミュニケーションを取り始めています。泣いているだけだった時期を経て、今や自分のできる範囲で考えながらやっていることがわかります。指差し、表情の変化、声の強弱や高低差などで自分の気持ちを語ることができる素晴らしい存在です。ますます、自分の見つけたものや興味持ったものを周りの大人にたくさん教えたくなってきます。その時には、ぜひ子どもが発見したことを大人が言葉に出して、気持ちを共有し、応答していくことをとても大事にしていきたいですね。次のステップである発語を促すためにも、伝えようとする気持ちを見逃さないようにしていきたいと思います。

「走るの 速いでしょ！」

八名川公園に散歩に行く。しっぽ取りを行うと各場所で遊んでいた子どもたちが一斉に集まってくる。Aはブランコから降りすぐにしっぽを追いかける。Bがしっぽを取ったが、逃げるのは怖いという事で、Aがしっぽをつける。Aはたくさんの友達が追ってくる中、追いかけてくる子がいない方へ逃げる他、先回りされ前から追いかけてくる子がいると体をひねって逃げながら走るなど、最後まで諦めずに走り続けた。

普段は仲良しの友だちの後に付いて行くことが多い本児だが、しっぽ取りでは自信を持って取り組み、自分の力を思い切り発揮することで満足している姿が見られた。活き活きと遊ぶ姿から本児の気持ちの変化を感じた。

3歳ちゅうりっぷ組の散歩先でのしっぽ取りという鬼ごっこの様子です。ちゅうりっぷ組の子どもたちは、みんな走ることが大好きで、公園に行くと、いつも大人と一緒に鬼ごっこを楽しんでいるそうです。

3歳児くらいになると、鬼ごっこのように簡単なルールのあるあそびを数人で楽しめるようになってきます。あそびとはいえ、鬼ごっこには勝ち・負けのようなものもあり、まだこの時期は捕まえられる(負けた)時のマイナスな感情を自分の中でうまく処理することが難しいため、Bがしっぽを付けることを嫌だと思う反応は3歳児らしい姿といえます。しかし、“負けたら嫌だな”の気持ちだけではなく、簡単なルール(約束)を守って動くことや、自分の体を思うように動かすことも楽しくなってくるので、その楽しさを十分に体験できるように大人が子どもの思いを察し、楽しさが続くように援助をしていくことも大切です。どうしたら鬼に捕まらないか工夫しながら頭と体をフル活用させ逃げるA。乳児までの大人との“追いかっこ”あそびから、ルールを理解し、友だちの中で自信を持ってのびのびと自分を発揮する姿に大きな成長を感じます。また鬼ごっこは、体力が付くだけではなく、判断力や想像力、協同性なども育まれるといわれています。やはり子どもは、あそびの中でたくさんのことを学びながら、大きくなっていくのですね。

～しっぽ取りのルール～(小さい頃にあそんだ方も多いとは思いますが)

体にしっぽを付けた人が逃げ、付けていない人が鬼役となり追いかけます。

しっぽを鬼に取られると交代し、鬼をしていた人がしっぽを付けて逃げます。



